

「なら近大ICT農法」による高設イチゴ栽培

2019年(令和元年)から近畿大学農学部と連携し、当園のメロン栽培に導入した「なら近大ICT農法」の技術を、本年度(2024年度)から4棟のいちごハウスに活用することで、必要な温度、湿度、水分量の調整や養分供給などの管理をICT技術を用いて行い、栽培管理データをパソコンやスマートフォンなどの電子機器類で確認することが出来るようになりました。



〈ICTを導入した4棟のいちごハウス〉



〈ICT 機器本体〉



〈エンネット加温器〉

奈良県の高級ブランド品種である「古都華」は、果皮はツヤのある赤色で香りが強く、糖度と酸度が高めで深みのある濃厚な味わいに特徴があり、栽培が難しいといわれていますが、この ICT 農法により、安定した高品質・高収量栽培が可能になります。「ゆめのか」は、果肉にほどよい硬さがあり、甘みと酸味が調和したジューシーないちご品種です。



〈色づき始めたのどか村天空いちご(古都華)〉



〈清潔感溢れ、収穫しやすい高設ベンチでの栽培〉

高設ベンチでいちごを栽培したことで、清潔感溢れるハウス内において、立ったままの姿勢でいちご狩りが出来るとともに、ハウス内列の間隔を1mとしたことで、車椅子やベビーバギーも容易に入場することが可能となり、ファミリー層をはじめ高齢者や障がい者の方々にも味覚狩りを満喫していただけます。